

信濃川水系河川整備計画(原案)への意見に対する補足説明

信濃川水系河川整備計画で定める目標流量を達成するための治水対策案について、概略評価を行った。今後、詳細な調査・検討を要するが、現段階では既設ダムの容量活用を中心とする案（既設ダムの有効活用＋河道の掘削）が有力である。

分類	治水対策案		実施内容のイメージ	概略評価	
Ⅰ. 河道掘削・築堤を中心とした対策	対策案①	河道掘削を中心とする案	【河道掘削】現整備計画河道で流下能力が不足する箇所について、河道掘削により流下能力を確保する。 【築堤】堤防の高さや幅の不足により流下能力が不足する箇所は、築堤により流下能力を確保する。	・事業実施区間から順次効果が発現する。	○
	対策案②	引堤を中心とする案	【引堤】現整備計画河道で流下能力が不足する箇所について、引堤により流下能力を確保する。 【築堤】堤防の高さや幅の不足により流下能力が不足する箇所は、築堤により流下能力を確保する。	・事業実施、効果の発現は、対策案①よりも長時間を要する。 ・引堤により大規模な用地補償や橋梁、樋門等の附帯施設の改築が必要となり、社会的影響も大きく地元合意形成が困難と予想され、現状において計画への位置付けは困難。	×
Ⅱ. 新規の洪水調節施設を中心とした対策	対策案③	ダムを中心とする案 ※(立ヶ花流量: 7,300m ³ /s)	【ダム建設】新たにダムを建設し、河道流量を低減する。 【河道掘削】ダム建設のみでは目標が達成できないため、河道掘削により流下能力を確保する。 【築堤】堤防の高さや幅の不足により流下能力が不足する箇所は、築堤により流下能力を確保する。	・ダムサイトの選定をはじめとした調査・検討、ダム建設に長時間を要する。 ・新たなダム建設により大規模な用地補償や附帯施設の設置が必要。また、社会的影響も大きく地元合意形成が困難と予想され、現状において計画への位置付けは困難。	×
	対策案④	遊水池を中心とする案 ※(立ヶ花流量: 7,300m ³ /s)	【遊水池建設】新たに遊水池を建設し、河道流量を低減する。 【河道掘削】遊水池建設のみでは目標が達成できないため、河道掘削により流下能力を確保する。 【築堤】堤防の高さや幅の不足により流下能力が不足する箇所は、築堤により流下能力を確保する。	・遊水池は事業完了時点で効果が発現する。 ・遊水池の整備に伴う用地補償や附帯施設の設置が必要。	○
Ⅲ. 既設ダムの有効活用を中心とした対策	対策案⑤	既設ダムのかさ上げを中心とする案	【既設ダムのかさ上げ】既設ダムをかさ上げすることにより新規治水容量を確保し、河道流量を低減する。 【河道掘削】既設ダムかさ上げのみでは目標が達成できないため、河道掘削により流下能力を確保する。 【築堤】堤防の高さや幅の不足により流下能力が不足する箇所は、築堤により流下能力を確保する。	・かさ上げが可能なダムは限られており、実現したとしても河道流量低減効果が限定的であり、有効な対策になり得ない。 ・既設ダムのかさ上げに伴う用地補償が必要となる。	×
	対策案⑥	既設ダムの容量活用を中心とする案 ※(立ヶ花流量: 7,300m ³ /s)	【既設ダムの容量の活用】大町ダム等の既設ダムの容量活用により、新たに洪水調整機能を確保し、河道流量を低減する。 【河道掘削】大町ダム等の既設ダムの容量活用のみでは目標が達成できないため、河道掘削により流下能力を確保する。 【築堤】堤防の高さや幅の不足により流下能力が不足する箇所は、築堤により流下能力を確保する。	・ダム管理者との調整を要するが、既設ダムの容量活用をするため、効果発現に要する期間が短い。 ・目標流量を超過する洪水に対しても洪水調節効果の発現が可能。	◎

※記載数値は河道配分流量